

持続可能な生理検査室の発展に寄与する教育プログラムの構築

◎坪井 亜弥¹⁾、鈴木 優大¹⁾、伊藤 英史¹⁾、大嶋 剛史¹⁾
医療法人 豊田会 刈谷豊田総合病院¹⁾

【はじめに】

生理検査を担う検査技師は、検査を行う上で知識や技術を身に付ける必要がある。また、患者対応や多職種連携の機会が多く、社会人基礎力も求められる。どちらも一朝一夕に習得できるものではなく、日常業務の中で十分に教育するのは容易ではない。当院生理検査室では、教育管理方法が統一されておらず、毎年、教育進捗に差が生じ、進捗状況の把握が困難であった。また、仕事に対する姿勢やマナーなど社会人基礎力の教育においては、教育内容が定まっておらず、教育者によって内容にばらつきがあった。今回、検査技師としての知識・技術と社会人基礎力をもつ生理検査技師育成を目的とした教育プログラムを構築したので、その取り組みについて報告する。

【方法】

1) 知識・技術①年間計画の設定：生理検査業務習得の優先度と各検査における教育期間を考慮し、年間スケジュールを週単位で設定した。②教育ステップの細分化：検査項目毎に、見学、見守り、結果確認、独り立ちの4ステップに細分化した。③合格基準の明確化：細分化したステップ毎に明確な合格基準を定めた。④教育管理システムを用いた進捗管理：教育進捗や教育者のコメントが記録可能なシステムを構築し、システム上で他のスタッフと共有可能にした。

2) 社会人基礎力①集団研修：社会人基礎力について、検査科全体の新人に対して行う教育委員会を立ち上げた。入職直後に、当院概要、検査科組織体系、ビジネスマインド、ビジネス思考、コミュニケーション、ビジネスマナー、情報システムについて教育を行った。②フィードバック：研修で学習した内容について日常業務内でフィードバックを行った。

【結果】

1) 知識・技術①都度、教育項目を検討するプロセスが削減でき、新人にもスケジュールを開示することで、目標をもって学習に取り組む事が出来た。また、週単位でスケジュールを設定する事で、新人の力量や検査数に応じて臨機応変に研修を進める事ができた。②検査手技の理解度、経験数、知識量のうち、どのステップに不足があるか明確になった。課題のスムーズステップ化により、スムーズに教育を進めることが出来た。③検査を行う上で必要不可欠な知識や手技が明確になり、教育内容が標準化された。また、教育者、新人共に自信を持って次のステップに進むことが出来た。④新人教育は教育担当以外にも複数人が関わるため、進捗管理や細かな申し送り事項の共有が可能になった。また、データベース化することで、来年度以降も履歴を容易に参照することが可能となった。

2) 社会人基礎力①1年目で学ぶべき項目について網羅的に教育することで、社会人基礎力が標準化され、日常業務でアウトプット可能な環境作りができた。また、日常業務内で教育する労力を軽減できた。②新人の理解度を確認し、知識の定着を図ることが出来た。

【まとめ】

近年、医療業界でも働き方改革が推進される一方、人員不足や価値観の多様化など様々な課題が山積し、生理検査教育の標準化は容易ではないと感じていた。しかし今後の生理検査室を見据え、時間投資や人的資源とツールの最適化を行う事で、理想的な生理検査技師の育成が可能な教育プログラムを構築することができた。今回の取り組みにより、質の高い教育の連鎖が期待でき、サステナブルな生理検査室の発展と更なる臨床貢献につながると考える。

0566-25-8117 (内線 4316)